

4. 城山ダム貯水池

4.1 城山ダム貯水池の概要

相模川は富士山麓の山中湖を源流とし、山梨県大月市で笹子川、葛野川と合流し、神奈川県に入り相模湖・津久井湖を過ぎると南下を始め、道志川、中津川等の支川を集め、県中央部を流下し相模湾に注ぐ全長 109km、流域面積 1,680km² の神奈川県最大の 1 級河川であり、流域内人口は約 120 万人である。

古くから流域の生活用水・かんがい用水・漁業等に広く利用されてきており、現在も神奈川県内の生活用水の約 60%は相模川水系から取水されており、一部は東京都にも分水されている。このような水需要に対応するとともに、流域の住民を洪水から守るため、相模川においては古くからダム開発が進められた。

城山ダムは、相模川に建設されたダムで、神奈川県相模原市に位置し、その流域は相模川上流部に位置する。

また、当ダムは、(かんがい用水)、水道用水、工業用水、発電及び洪水調節を目的として、昭和 40 年に竣工したダムである。城山ダムの概要を表 4.1 に、位置図及び流域概要図を図 4.1 に示す。

表 4.1 城山ダムの概要

(1)ダム名称	城山ダム	(2)管理者	神奈川県	(3)ダム所在地	神奈川県
(4)水系名・河川名	相模川水系・相模川	(5)水域名		(6)集水面積	相模川上流(2)
(6)集水面積	1,221.3(km ²)	(7)環境基準類型		(8)堰長	河川 A
(8)堰長	260(m)	(9)堤高	75(m)	(10)総貯水容量	62,300(千 m ³)
(11)有効貯水容量	54,700(千 m ³)	(12)年平均滞留時間		(12)年平均滞留時間	13.72(日)

※年平均滞留時間=年平均貯水量/年平均放流量(それぞれ、H6~H15の年平均値を求めて算出)

資料：神奈川県企業庁資料

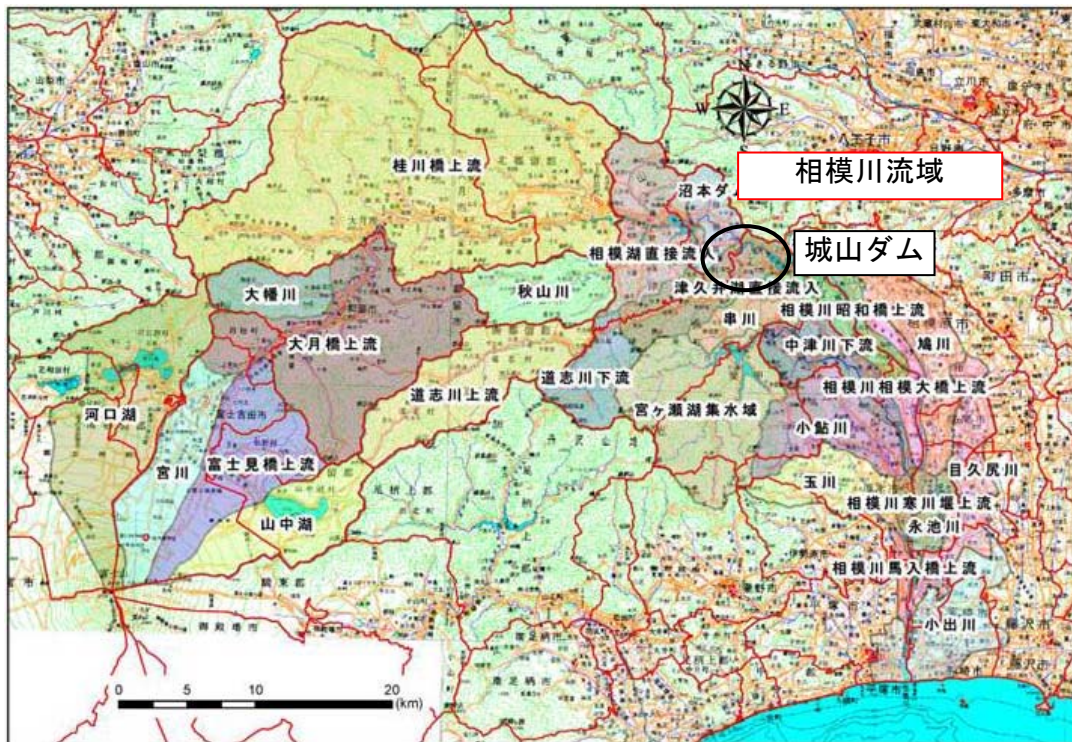


図 4.1 城山ダムの位置図及び流域概要図

4.2 城山ダム流域の流域環境基準の類型指定状況

城山ダム流域の水域類型指定状況は、表 4.2、図 4.2に示すとおりである。

表 4.2 城山ダム流域の水域類型指定状況

水域名称	水 域	該当 類型	達成 期間	指定年月日	
相模川水系の 相模川（桂川 を含む）	相模川下流 （寒川取水堰より下流）	河川 C	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(1) （柄杓流川合流点より上流）	河川 AA	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(2) （柄杓流川合流点から相模湖大 橋（相模ダム）まで）	河川 A	ハ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(3) （相模湖大橋（相模ダム）から城 山ダムまで）	河川 A	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川中流 （城山ダムから寒川取水堰まで）	河川 A	ロ	昭和 45. 9. 1	閣議 決定
相模川水系の 宮川	宮川（相模川に合流するものの全 域）	河川 B	ロ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 柄杓流川	柄杓流川（全域）	河川 A	ハ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 朝日川	朝日川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 笹子川	笹子川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 鶴川	鶴川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 山中湖	山中湖（全域）	湖沼 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 河口湖	河口湖（全域）	湖沼 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 中津川	中津川（宮ヶ瀬ダム下流端から下 流の区域）	河川 A	イ	平成 17. 3. 11	神奈川 県告示

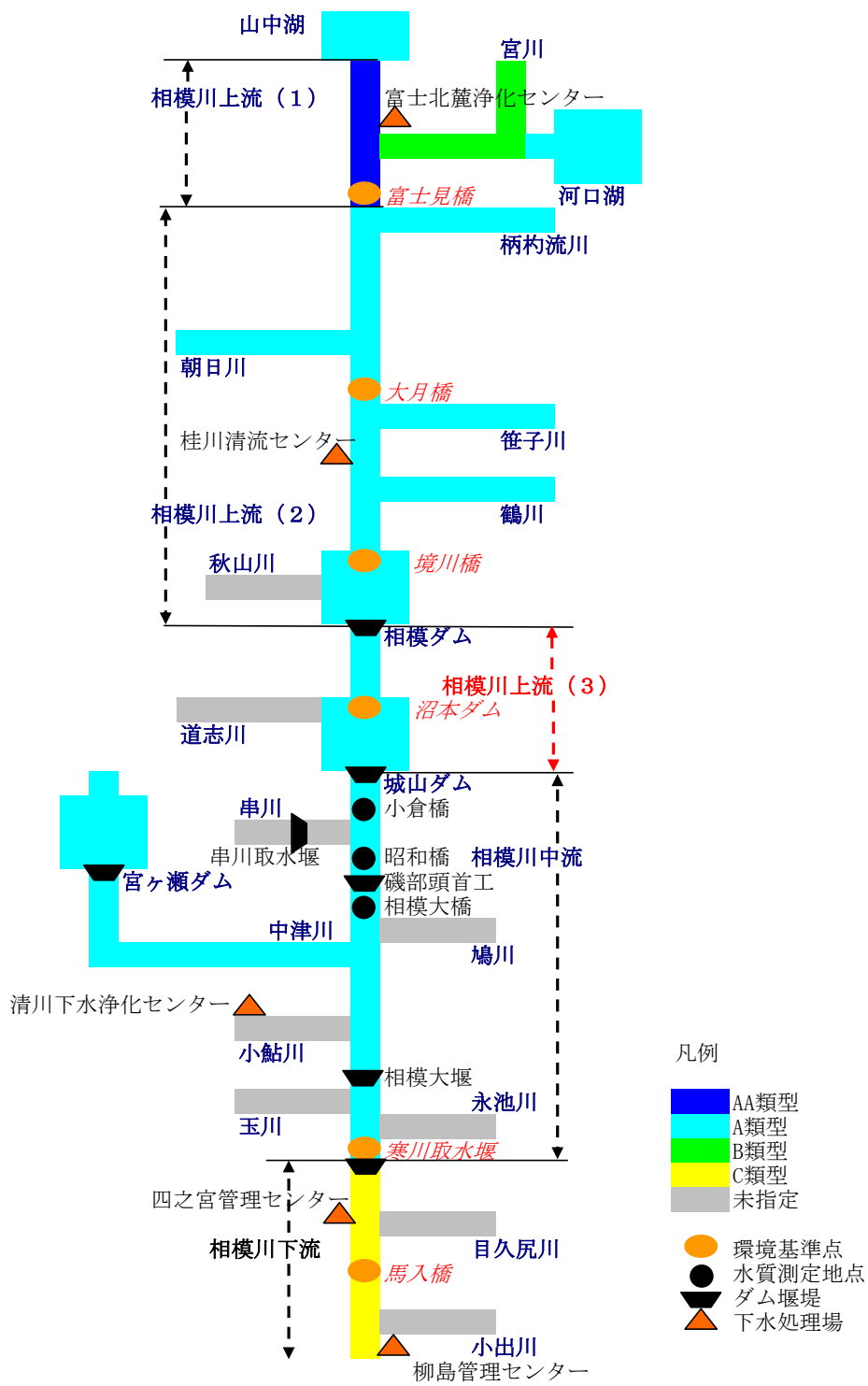


図 4.2 城山ダム流域の概要図

4.3 城山ダム貯水池の水質状況

城山ダム貯水池の水質経年変化は、表 4.3、図 4.3に示すとおりである。

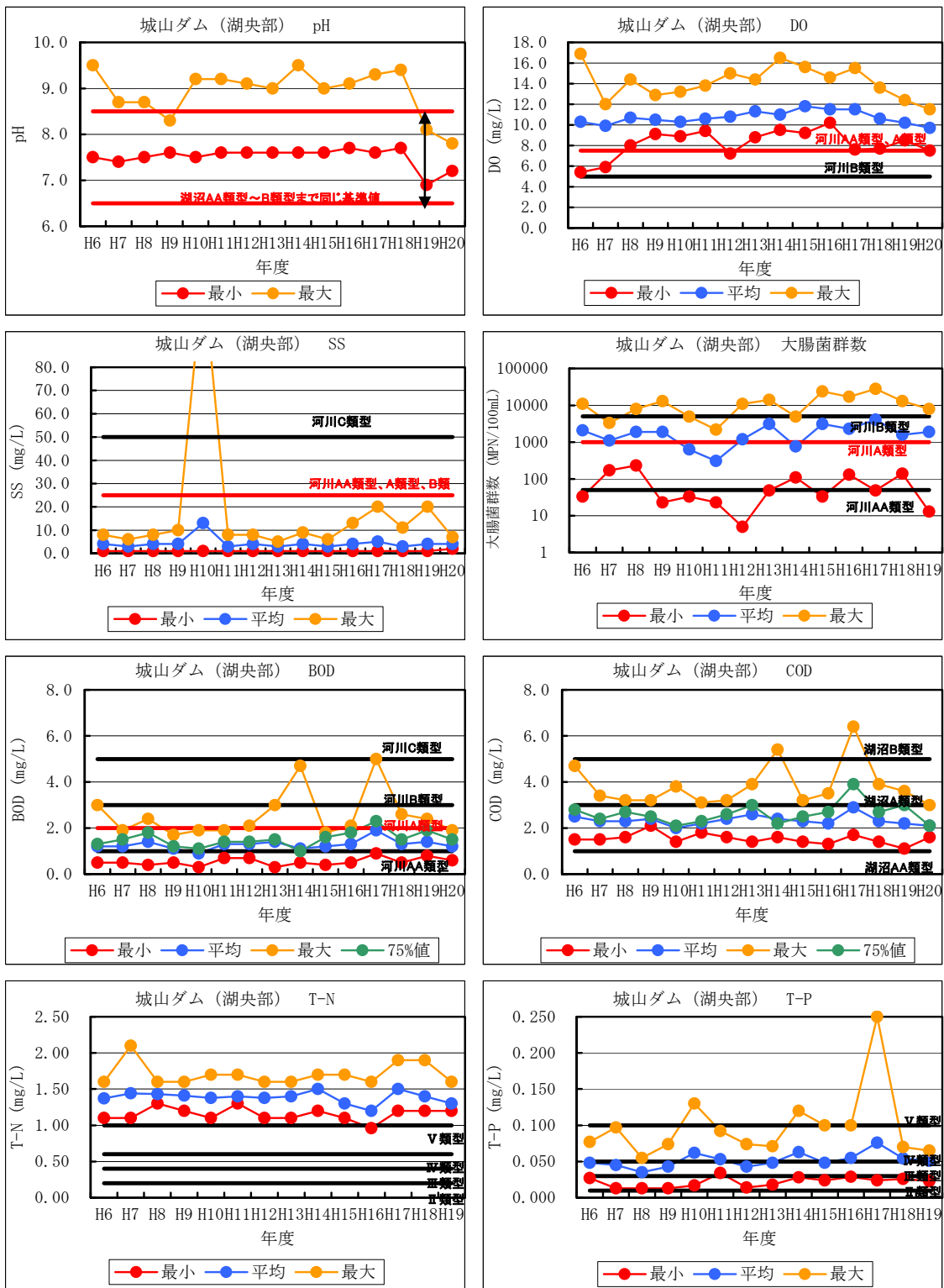
表 4.3 城山ダム貯水池水質経年変化

年度	pH			DO(mg/L)				BOD(mg/L)			
	最小	最大	m/n	最小	平均	最大	m/n	最小	平均	最大	75%値
H6	7.5	9.5	3/12	5.4	10.3	16.9	2/12	0.5	1.2	3.0	1.3
H7	7.4	8.7	1/12	5.9	9.9	12.0	1/12	0.5	1.2	1.9	1.5
H8	7.5	8.7	3/12	8.0	10.7	14.4	0/12	0.4	1.4	2.4	1.8
H9	7.6	8.3	0/12	9.1	10.5	12.9	0/12	0.5	1.1	1.7	1.2
H10	7.5	9.2	2/12	8.9	10.3	13.2	0/12	0.3	0.9	1.9	1.1
H11	7.6	9.2	2/12	9.4	10.6	13.8	0/12	0.7	1.3	1.9	1.4
H12	7.6	9.1	3/12	7.2	10.8	15.0	1/12	0.7	1.3	2.1	1.4
H13	7.6	9.0	5/12	8.8	11.3	14.4	0/12	0.3	1.4	3.0	1.5
H14	7.6	9.5	4/12	9.5	11.0	16.5	0/12	0.5	1.1	4.7	1.0
H15	7.6	9.0	4/12	9.2	11.8	15.6	0/12	0.4	1.2	1.8	1.6
H16	7.7	9.1	5/12	10.2	11.5	14.6	0/12	0.5	1.3	2.1	1.8
H17	7.6	9.3	4/12	7.6	11.5	15.5	0/12	0.9	1.9	5.0	2.3
H18	7.7	9.4	2/12	7.7	10.6	13.6	0/12	0.5	1.3	2.6	1.5
H19	6.9	8.1	0/12	8.5	10.2	12.4	0/12	0.8	1.4	2.4	1.9
H20	7.2	7.8	0/12	7.5	9.7	11.5	0/12	0.6	1.2	1.9	1.5

年度	SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
	最小	平均	最大	m/n	最小	平均	最大	m/n
H6	1	4	8	0/12	3.3E+01	2.1E+03	1.1E+04	5/12
H7	1	3	6	0/12	1.7E+02	1.1E+03	3.3E+03	4/12
H8	1	4	8	0/12	2.3E+02	1.9E+03	7.9E+03	6/12
H9	1	4	10	0/12	2.3E+01	1.9E+03	1.3E+04	3/12
H10	1	13	120	1/12	3.3E+01	6.3E+02	4.9E+03	1/12
H11	1	3	8	0/12	2.3E+01	3.1E+02	2.2E+03	1/12
H12	1	4	8	0/12	5.0E+00	1.2E+03	1.1E+04	3/12
H13	1	3	5	0/12	4.9E+01	3.1E+03	1.4E+04	5/12
H14	1	4	9	0/12	1.1E+02	7.6E+02	4.9E+03	2/12
H15	1	3	6	0/12	3.3E+01	3.1E+03	2.4E+04	5/12
H16	1	4	13	0/12	1.3E+02	2.3E+03	1.7E+04	5/12
H17	1	5	20	0/12	4.9E+01	4.1E+03	2.8E+04	7/12
H18	1	3	11	0/12	1.4E+02	1.6E+03	1.3E+04	3/12
H19	1	4	20	0/12	1.3E+01	1.9E+03	7.9E+03	4/12
H20	2	4	7	0/12	—	—	—	—

年度	COD(mg/L)				T-N(mg/L)			T-P(mg/L)		
	最小	平均	最大	75%値	最小	平均	最大	最小	平均	最大
H6	1.5	2.5	4.7	2.8	1.10	1.37	1.60	0.027	0.048	0.077
H7	1.5	2.3	3.4	2.4	1.10	1.44	2.10	0.013	0.045	0.097
H8	1.6	2.3	3.2	2.7	1.30	1.43	1.60	0.013	0.035	0.055
H9	2.1	2.4	3.2	2.5	1.20	1.41	1.60	0.013	0.043	0.074
H10	1.4	2.0	3.8	2.1	1.10	1.38	1.70	0.017	0.062	0.130
H11	1.8	2.2	3.1	2.3	1.30	1.40	1.70	0.034	0.053	0.092
H12	1.6	2.4	3.2	2.6	1.10	1.38	1.60	0.014	0.043	0.074
H13	1.4	2.6	3.9	3.0	1.10	1.40	1.60	0.018	0.048	0.071
H14	1.6	2.4	5.4	2.2	1.20	1.50	1.70	0.028	0.063	0.120
H15	1.4	2.3	3.2	2.5	1.10	1.30	1.70	0.024	0.048	0.100
H16	1.3	2.2	3.5	2.7	0.96	1.20	1.60	0.029	0.055	0.100
H17	1.7	2.9	6.4	3.9	1.20	1.50	1.90	0.024	0.076	0.250
H18	1.4	2.3	3.9	2.7	1.20	1.40	1.90	0.026	0.054	0.070
H19	1.1	2.2	3.6	3.0	1.20	1.30	1.60	0.023	0.051	0.065
H20	1.6	2.1	3.0	2.1	—	—	—	—	—	—

注) n:測定実施検体数、m:水質環境基準を満足しない検体数
資料:神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果



注) 現在城山ダム水域は河川A類型であり、赤字・赤線でこれを示した。

図 4.3 城山ダム貯水池の水質の経年変化

N/P 比は、平成 17 年度を除いて 20 以上となっている。一方、T-P は、すべて 0.02mg/L 以上となっている。

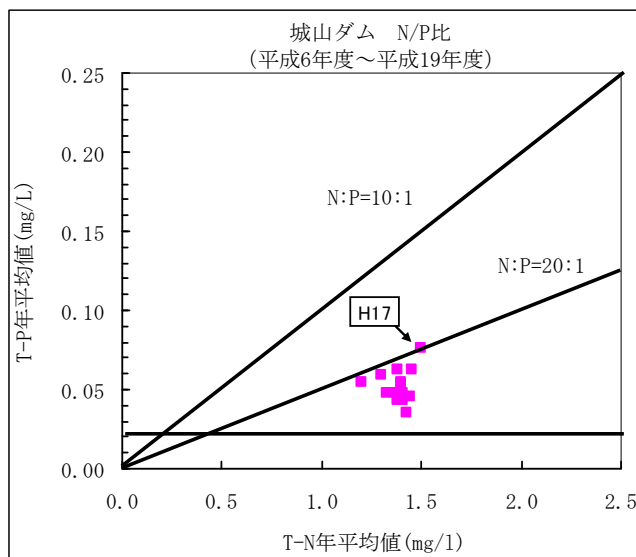


図 4.4 城山ダム N/P 比の状況

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼(全窒素/全磷比が 20 以下であり、かつ全磷濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。)についてのみ適用
(「水質汚濁に係る環境基準について」(告示・S46.12.28 環告 59) 別表 2 の 1(2)のイの備考 2)

<平成 17 年度の COD、T-P 濃度について>

平成 17 年度の T-P 濃度は、図 4.5 に示すとおりであり平成 17 年 8 月に高濃度を検出している。

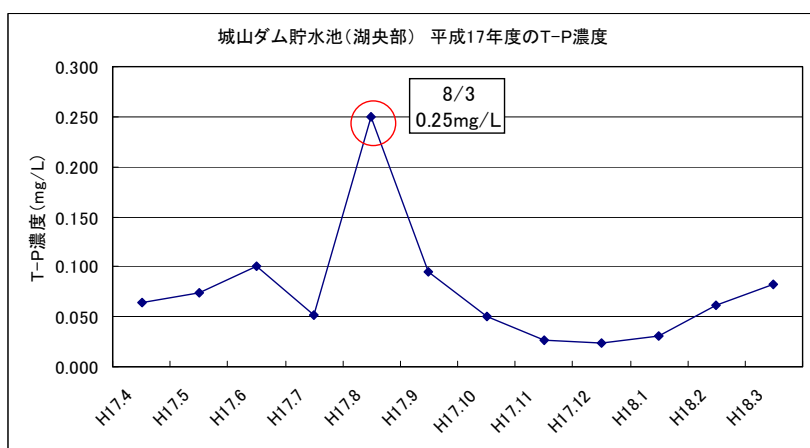


図 4.5 城山ダム (湖央部) の T-P 濃度の経月変化 (平成 17 年度)

一方、平成 17 年度の T-P 濃度は、図 4.6 に示すとおりであり平成 17 年 8 月に高濃度を検出している。このときの先行降雨は表 4.4 に示すとおりであり、測定日 8 日前に 165mm の比較的大きい雨を観測している。

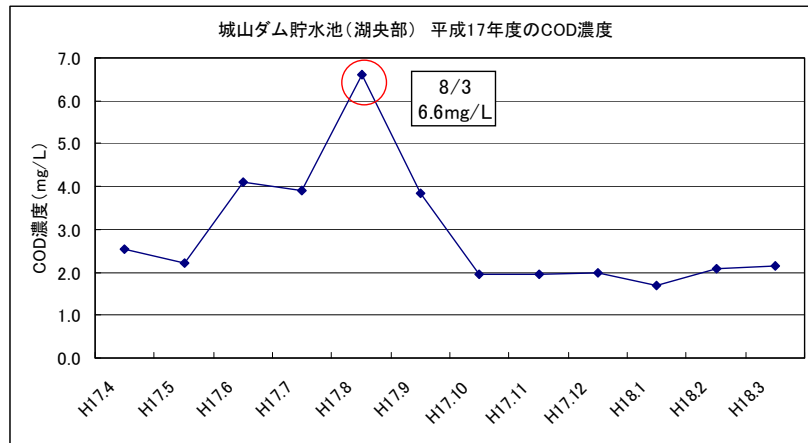


図 4.6 城山ダム（湖央部）の COD 濃度の経月変化（平成 17 年度）

表 4.4 平成 17 年度の先行降雨の状況

年	月日	降水量									
		測定日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前	7日前	8日前	9日前
H17	8/3	0	0	0	0	0	0	0	1	165	36

また、平成 17 年度におけるクロロフィルaの経月変化を図 4.7 に示す。夏場においてクロロフィルaの数値が高くなっていることから、植物プランクトンの増殖により高濃度が検出された可能性が考えられる。

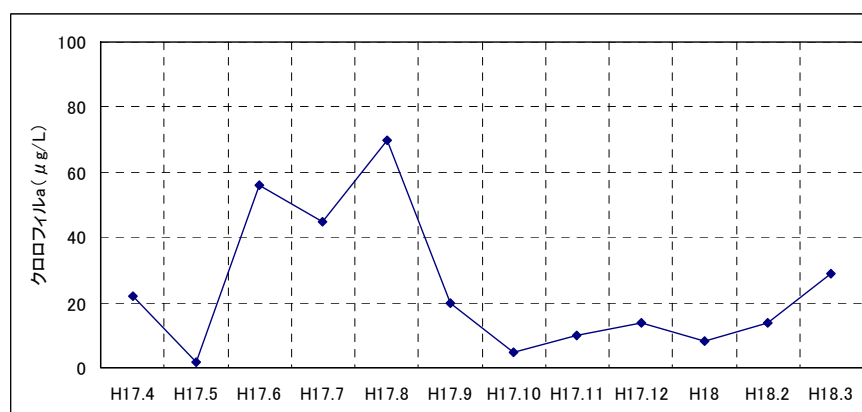


図 4.7 城山ダムのクロロフィルの a の経月変化（平成 17 年度）

以上から、平成 17 年 8 月の COD と T-P は、出水の影響が大きいと考えられるため、先行降雨の影響を受けた値と判断できる。

なお、上記で先行降雨を受けた値を除外した場合の COD75% 平均値は 2.6 mg/L となる。

また、上記の検体値を除外した場合の T-N/T-P 比を図 4.8 に示す。この図より、平成 17 年度の N/P 比は 25.0 となる。

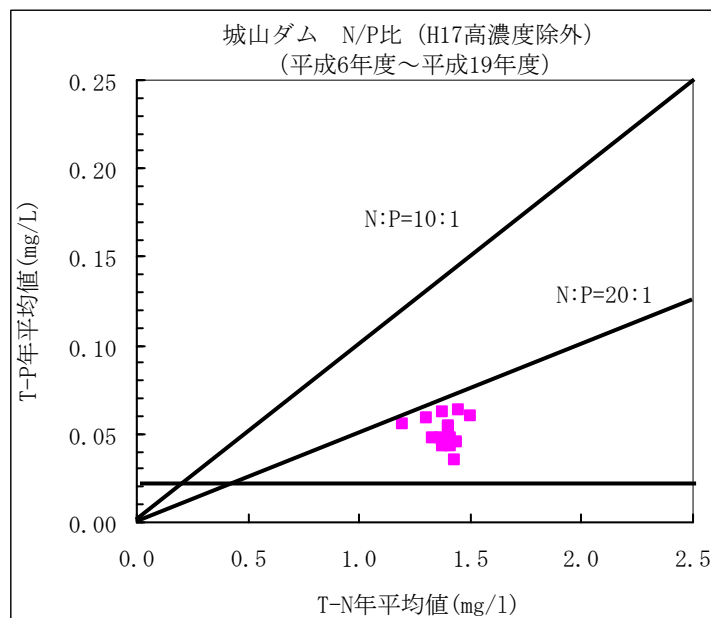


図 4.8 城山ダム N/P 比の状況 (H17 の異常値を除外)

ここで、城山ダムの流入河川水質 (COD、T-P) の経年変化は以下のとおりである。近年における流入河川水質は、湖沼内部よりも特段高い濃度は検出されていない。このことから、平成 17 年度の高濃度の要因については、植物プランクトンの増殖による内部生産の可能性が高い。

表 4.5 城山ダム流入河川の COD、T-P 経年変化

年度	COD (mg/L)				T-P (mg/L)	
	沼本ダム		道志橋		沼本ダム	道志橋
	75%値	平均値	75%値	平均値	平均値	平均値
H6	2.5	2.4	3.4	3.4	0.080	0.066
H7	2.5	2.2	4.0	3.4	0.089	0.052
H8	2.6	2.4	3.1	2.8	0.085	0.037
H9	2.3	2.1	3.3	2.8	0.088	0.046
H10	2.0	1.9	2.7	5.1	0.081	0.103
H11	2.3	2.0	2.2	2.2	0.081	0.038
H12	2.5	2.3	2.4	2.2	0.083	0.039
H13	3.4	2.5	3.2	2.6	0.084	0.029
H14	2.9	2.4	2.0	1.9	0.094	0.028
H15	2.3	1.4	1.9	1.7	0.078	0.036
H16	2.5	2.1	1.8	1.8	0.081	0.024
H17	2.8	2.4	2.9	2.3	0.089	0.046
H18	2.2	2.0	2.0	1.8	0.082	-
H19	2.9	2.3	2.0	1.7	0.084	0.018

城山ダムでは、曝気循環装置が設置されており、平成5年に空気揚水筒、散気管が各々1基、平成6年には散気管が3基、その後平成9年までに流動化装置が4基設置され、合計9基が設置された。城山ダム（津久井湖）の曝気循環装置設置位置を図4.9に示す。



図 4.9 城山ダム（津久井湖）曝気循環装置設置位置

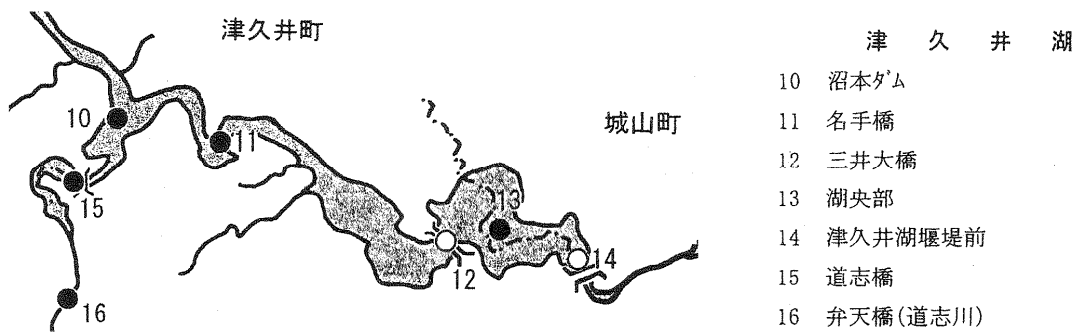
2.4 「窒素含有量又は磷含有量についての排水基準に係る湖沼」との関係について

ここで、城山ダムについては、平成10年6月に「窒素含有量又は磷含有量についての排水基準に係る湖沼」として、追加指定を受けており、その際に、根拠とした水質は下表のとおりである。この根拠とした水質は、4地点（沼本ダム、名手橋、湖央部、道志橋）での平均値となっており平成3年度から平成5年度まではNP比20を下回っており、排水規制の対象湖沼となっている。

表 4.6 城山ダムの各測定地点における NP 比等の経年変化（平成3年度～平成7年度）

4地点平均						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.30	2.70	1.51	1.37	1.40	1.66
T-P	0.087	0.512	0.090	0.064	0.061	0.163
T-N/T-P	15.0	5.3	16.8	21.5	23.1	10.2
①沼本ダム						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.28	1.30	1.48	1.42	1.48	1.39
T-P	0.088	0.083	0.086	0.078	0.089	0.085
T-N/T-P	14.5	15.7	17.2	18.2	16.6	16.4
②名手橋						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.35	1.66	1.6	1.32	1.4	1.47
T-P	0.095	0.153	0.103	0.056	0.059	0.093
T-N/T-P	14.2	10.8	15.5	23.6	23.7	15.7
③湖央部						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.28	1.39	1.45	1.37	1.44	1.39
T-P	0.067	0.057	0.070	0.048	0.045	0.057
T-N/T-P	19.1	24.4	20.7	28.5	32.0	32.2
④道志橋						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.29	6.43	1.51	1.37	1.28	2.38
T-P	0.096	1.755	0.100	0.073	0.049	0.415
T-N/T-P	13.4	3.7	15.1	18.8	26.1	5.7

現在の測定地点は下記のとおりであり、今回の審議会に係る検討資料のほとんどは湖央部での達成状況での資料としている。



注：図中●印の地点は水質汚濁防止法第16条に基づく水質測定計画の調査地点を示す

図 4.10 城山ダム水域の水質測定地点

表 4.7 城山ダム水域の水質測定地点情報

地点番号	水域名	地点番号	類型	備考
1403301	相模川上流(3)	沼本ダム	A(河川類型)	環境基準点
1403351	相模川上流(3)	名手橋	A(河川類型)	補助点
1403352	相模川上流(3)	湖央部	A(河川類型)	補助点
1403353	相模川上流(3)	道志橋	A(河川類型)	補助点

平成 15 年度から平成 19 年度については下記のとおりであり、平成 18 年度は NP 比 20 を上回っているもののその他の年は 20 を下回っている。

表 4.8 城山ダムの各測定地点における NP 比等の経年変化（平成 15 年度～平成 19 年度）

4地点平均	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.4	1.2	1.5	1.4	1.4	1.4
T-P	0.073	0.068	0.10	0.061	0.070	0.075
T-N/T-P	18.9	18.1	15.3	22.1	19.7	18.3
①沼本ダム						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.4	1.3	1.5	1.4	1.4	1.4
T-P	0.077	0.079	0.092	0.082	0.081	0.082
T-N/T-P	18.2	16.5	16.3	17.1	17.3	17.0
②名手橋						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.7	1.4	1.9	1.4	1.5	1.6
T-P	0.12	0.11	0.18	0.080	0.10	0.118
T-N/T-P	14.2	12.7	10.6	17.5	15.0	13.4
③湖央部						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.3	1.2	1.5	1.4	1.3	1.3
T-P	0.048	0.055	0.076	0.054	0.051	0.057
T-N/T-P	27.1	21.8	19.7	25.9	25.5	32.2
④道志橋						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.1	1.0	1.2	1.2	1.3	1.2
T-P	0.047	0.029	0.064	0.027	0.049	0.043
T-N/T-P	23.4	34.5	18.8	44.4	26.5	26.9

これを過去 10 年間で、異常値等の検定をかけた後でのそれぞれの各測定地点における表及び図を示すと下記のとおりとなる。

表 4.9 城山ダムの各測定地点における NP の経年変化（平成 11 年度～平成 20 年度）

沼本ダム	沼本ダム	沼本ダム	名手橋	T-N	T-P	湖中央部	T-N	T-P	道志橋	T-N	T-P
平成11年	1.47	0.081	平成11年	1.39	0.065	平成11年	1.4	0.053	平成11年	1.03	0.057
平成12年	1.48	0.084	平成12年	1.44	0.077	平成12年	1.38	0.043	平成12年	1.21	0.051
平成13年	1.48	0.083	平成13年	1.45	0.079	平成13年	1.41	0.048	平成13年	1.14	0.038
平成14年	1.5	0.095	平成14年	1.53	0.095	平成14年	1.45	0.058	平成14年	1.06	0.022
平成15年	1.39	0.077	平成15年	1.3	0.063	平成15年	1.33	0.048	平成15年	1.07	0.047
平成16年	1.34	0.079	平成16年	1.43	0.087	平成16年	1.25	0.055	平成16年	1.02	0.029
平成17年	1.43	0.092	平成17年	1.29	0.089	平成17年	1.37	0.06	平成17年	1.16	0.026
平成18年	1.44	0.082	平成18年	1.42	0.08	平成18年	1.4	0.054	平成18年	1.16	0.027
平成19年	1.42	0.081	平成19年	1.42	0.082	平成19年	1.31	0.051	平成19年	0.96	0.018
平成20年	1.36	0.078	平成20年	1.3	0.061	平成20年	1.28	0.046	平成20年	1.07	0.03

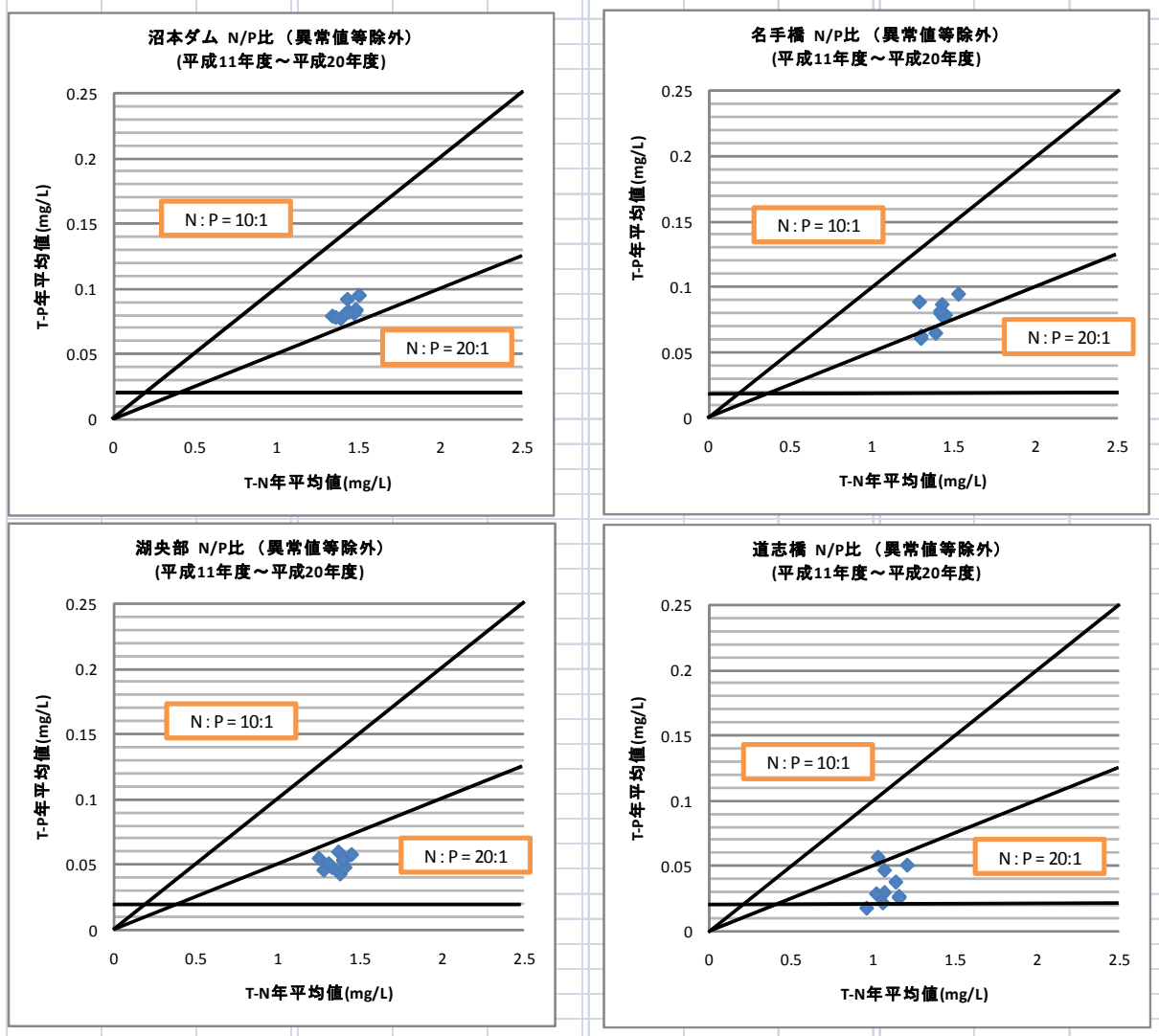


図 4.11 城山ダムの各測定地点における N/P 比の状況（異常値等除外）

なお、城山ダム（津久井湖）の水質測定に関しては、以前から沼本ダムまでを併せて、津久井湖として一体的にデータ整理等行っていることから、4地点で一体的に考えることが適当であることから、NP比に関しても、湖央部1点だけで考えることなく津久井湖全体としてNP比を考えることとする。

これにより、平成18年度はNP比20以下ではないものの、平成3年度から20以下として検討を行っている過去の経過も含めて考えると、NP比20以下については妥当なものであり、T-Nの項目の基準値を適用すべき湖沼の条件を満たしていると言える。

【参考】

平成13年5月31日付け環水企第92号「環境基本法に基づく水質環境基準の類型指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準」（抜粋）

②湖沼における全窒素及び全燐の環境基準の達成状況の評価

- ア. 湖沼における全窒素及び全燐の環境基準の達成状況の評価は、当該水域の環境基準点において、表層の年間平均値が当該水域が当てはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。
- イ. 複数の環境基準点を持つ水域については、当該水域内のすべての環境基準点において、環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

2.5 城山ダムの利水状況

城山ダムの利水状況は、表4.10、表4.11に示すとおりである。なお、城山ダムを中心とした地域は、昭和58年に県立陣馬相模湖自然公園に指定されている。

表 4.10 城山ダムの利用目的

洪水調節	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○			○	○	○		○

資料：神奈川県政策部土地水資源対策課資料

表 4.11 城山ダムの利水等の現状

水利用途	利水の有無	利水状況	取水地点	特記事項
水道用水	有り	横浜市水道(西谷浄水場) 水源名:相模川水系(相模湖) 【処理水準:水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(AⅡ類型相当)】	城山ダム(沼本ダム)、相模大堰、寒川取水堰	カビ臭(ほぼ毎年)、ろ過障害(平成3,4,9年)
		川崎市水道(長沢浄水場・潮見台浄水場) 水源名:相模川水系(相模湖) 【処理水準:水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(AⅡ類型相当)】		
		神奈川県水道(谷ヶ原浄水場) 水源名:相模川水系(相模湖) 【処理水準:水道2級(急速ろ過・緩速ろ過・塩素処理・多層ろ過)(AⅡ類型相当)】		
		神奈川県水道(寒川浄水場) 水源名:相模川水系相模川 【処理水準:水道2級(急速ろ過・塩素処理・多層ろ過・酸処理)(AⅡ類型相当)】		—
		神奈川県内広域水道企業団(綾瀬浄水場) 水源名:相模川 【処理水準:水道2級(急速ろ過・塩素処理)(AⅡ類型相当)】 神奈川県内広域水道企業団(小雀浄水場) 水源名:相模川 【処理水準:水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(AⅡ類型相当)】		
農業用水	無し	—	—	—
工業用水	有り	—	城山ダム(沼本ダム)、寒川取水堰	—

注) 横須賀市においても相模川水系の水道利用があるが、浄水場は横浜市と共同で運営している。また、神奈川県からも浄水を受水している。

資料: 水道水質データベース(http://www.jwwa.or.jp/mizu/or_up.html)
横須賀市上下水道局 HP(<http://www.water.yokosuka.kanagawa.jp/index.html>)
神奈川県内広域水道企業団 HP(<http://www.kwsa.or.jp/index.html>)

なお、城山ダム貯水池関連の浄水場における活性炭の使用状況を表 4.12に整理した。活性炭の投入については、異臭味や水質事故などの異常時に行っており、各浄水場の独自の基準（水質試験、官能試験等）により実施している。

表 4.12 城山ダム貯水池活性炭使用状況

対象水域	管理部署	浄水場名	水源名	処理水準	活性炭使用状況	
					注入状況 ※1	概要
相模ダム 城山ダム	横浜市水道局	西谷浄水場	相模湖 道志川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏から9、10月にかけて、原水に臭気が発生した場合に粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用しており、ほぼ毎年、使用している。 ・現在、臭気物質(ジオスミン、2-MIB等)データを公表しているが、これは月1回の定期調査の結果である。 ・活性炭の投入基準は、官能検査を3人で実施して1人でも異常を感じたら投入する(検査は3h間隔)。 ・このほか、月1回の定期検査とは別に、詳細な検査を実施しており、これを判断基準にすることもある。 ・また、上流側の浄水場で活性炭投入の報告があれば投入することとしている。
		小雀浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・原水水質があまりよくないので、臭気やTOCを見ながら通年を通して活性炭を投入する機会が多い。 ・夏場、冬場など季節に限らず投入しており、特に降雨の後は、水質が変化することが多いので投入することが多い。 ・粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用している。
	川崎市水道局	長沢浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・春先および夏場の臭気対策として粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用している。 ・現状としては、ほぼ毎年使用している。
		潮見台浄水場	相模川 酒匂川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・本浄水場の原水は、相模川水系と酒匂川水系の混合水である。 ・よって、いずれかの水系で臭気が発生した場合に使用する。 ・春先および夏場の臭気対策として50%ウェット炭を使用している。 ・現状としては、ほぼ毎年使用している。
	神奈川県水道	谷ヶ原浄水場	沼本ダム	水道2級(急速ろ過・緩速ろ過・塩素処理・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・年によって使用する量や期間は違うが、概ね夏場の臭気対策として50%ウェット炭を使用することが多い。 ・活性炭の投入基準は、官能検査を3人で実施して1人でも異常を感じたら投入する(検査は3h間隔)。 ・このほか、月1回の定期検査とは別に、詳細な検査をほぼ毎時間実施しており、これを判断基準にすることもある(夏場など、臭気物質が発生する可能性が大きい時期に実施)。 ・また、貯水池内の細胞数(アナベナ等)を監視しており、その状況で投入の必要性があるかどうかは事前にある程度把握できる状況になっている。
		寒川浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・多層ろ過・酸処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・活性炭は基本的に水質事故が発生した場合にのみ入れている。 ・通常の高度処理ということではなく、非常時に投入している。 ・50%ウェット炭を使用している。
	神奈川県内広域水道企業団	綾瀬浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・活性炭は基本的に水質事故が発生した場合にのみ入れている。 ・通常の高度処理ということではなく、非常時に投入している。 ・50%ウェット炭を使用している。

※○：常時注入、△：異常時注入、×：注入していない